

公益社団法人 森林・自然環境技術教育研究センター
令和2年度定時総会におけるお祝いの言葉（案）

日時：令和2年6月19日(金)15:00～17:00

場所：日林協会館3階大会議室

本日ここに、公益社団法人 森林・自然環境技術教育研究センターの令和2年度定時総会が開催されますことに対し、心よりお慶び申し上げます。

本日御列席の皆様方には、日頃から林野行政全般にわたりまして、格別の御支援、御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

貴センターにおかれましては、我が国の自然特性を踏まえた森林の保全管理に関する調査研究、技術開発、技術情報の集積をはじめ、森林技術者の技術向上及び継続教育に御尽力されていることに深く敬意を表します。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策の実施などに御理解・御協力をいただき、感謝申し上げます。各職場で業務に取り組まれている皆様におかれましては、林野庁が関係省庁と連携して作成いたしました「林業経営体における新型コロナウイルス感染者が発生した時の対応及び業務継続に関する基本的なガイドライン」等に準じて皆様の健康保護を図りつつ業務を継続し、引き続き感染拡大防止に御協力いただきますようお願いいたします。

さて、我が国の森林・林業に目を向けると、戦後造成された人工林の多くが本格的な利用期を迎えている今、「伐って、使って、植える」サイクルを確立させ、林業を成長産業化させていくことが不可欠です。

このような中、森林経営管理法が施行され、併せて森林環境税及び森林環境譲与税が導入されるとともに、国有林野管理経営法改正、森林組合法改正等により意欲と能力のある林業経営体の育成も進めることとなりました。

あわせて、これら新たな制度の着実な運営に向けては市町村の森林・林業行政を支援する森林技術者の存在がますます重要となっており、関係者の連携はもとより、林野庁としても、地域林政アドバイザーやフォレスターなどによる市町村への支援も引き続き進めてまいります。

また、労働人口が減少する中、どの産業においても、先端技術の活用による生産性向上の取組が積極的に進められていますが、林業の世界においても、ICTによる資源管理や生産管理を行うスマート林業の推進や自動化機械の開発、早生樹の導入など林業イノベーションに大きな期待が寄せられており、森林土木分野でも3次元モデルによる設計から施工、維持管理に至る一連の建設生産・管理システムの高度化を進めることが必要となっています。

こうした施策の推進に当たりましては、貴センターの会員の皆様をはじめ、関係者が一体となって現在までに蓄積された技術情報の提供や普及啓発、森林技術者の専門技術の向上及び継続的な教育が必要であり、今後とも、皆様の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴センターのますますの御発展と本日御列席の皆様方の御健勝と御発展を心から御祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

令和2年6月19日

林野庁森林整備部長 小坂 善太郎